

町田市の図書館評価

2024年度事業の評価結果

2026年3月

町田市立図書館

まえがき

1 町田市立図書館における図書館評価の取り組みについて

町田市では、2008年6月の図書館法改正を契機として、図書館評価に取り組んでいくこととしました。改正内容に、図書館自身はその運営状況を自己点検し、改善するとともに、関係者へ積極的に情報提供を行う内容が盛り込まれたためです。

2009年度から2013年度の5カ年を第1期の計画期間とし、5年間で到達すべき目標を設定しました。また、評価項目ごとに単年度の取組目標を毎年度設定し、その達成状況を自己評価しました。

2014年度から2018年度の第2期図書館評価は、2013年4月に策定した『図書館事業計画』を基に活動指標を選び、当該年度の実績と取組を記入しました。

2019年度から2023年度の第3期図書館評価は、『町田市教育プラン』や、『効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン』ともリンクしている、図書館事業計画の後継計画である『町田市生涯学習推進計画2019-2023』の項目を評価対象としました。

2024年度から2028年度の第4期図書館評価は、生涯学習推進計画と町田市教育プランを統合させて策定された『町田市教育プラン24-28』の図書館該当項目を評価対象としました。加えて年度ごとに指定した館（直営館6館）も評価の対象としました。

外部評価については2009年度から町田市立図書館協議会（以下「図書館協議会」とする）に依頼しています。

図書館協議会による外部評価『町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告』（以下「外部評価報告書」とする）は、この報告書に掲載しました。個々の事業に対する外部評価は、「外部評価者のコメント」として各シートの該当箇所に記載されています。今年度は新たな評価様式となり評価方法が変更になったこともあり、図書館協議会の皆様にはご苦勞をおかけいたしました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

2 図書館協議会からの評価と提言について

先に記した外部評価報告書の中で、図書館に対して様々な評価と提言をいただきました。

各項目に関する評価の中で、高く評価をいただいた点や期待していただい

る点、力及ばなかった点などをご報告いただいております。いただいた一つ一つの評価コメントが町田市立図書館での取組を進めるうえで貴重な指針になるものと受け止めております。良かった点はさらに伸ばし、今一步だった点は改善を進めるなど、より良い図書館運営につなげてまいります。

提言では、外部評価手法や過去の評価結果との比較、資料購入費に関してのご意見をいただいております。外部評価の手法に関しては、今後も分かりやすい資料作成や評価に関する協議時間の確保など、より良い方法を検討してまいります。また、過去の評価結果との比較では、概ね計画に基づき事業推進できている点をご指摘いただきましたので、この状況を継続できるよう努めてまいります。そして、資料購入費についても図書館運営の基盤であると認識しており、少しでも多く確保できるよう努めていきたいと考えています。

3 むすびに

図書館評価は第4期1年目となりました。既存の取組を充実させる一方、若い世代を中心に図書館を身近に感じ、利用につなげる取組が必要だと感じております。図書館システムの刷新でさらなる利便性の向上を図ったところですが、今後もより多くの方が本に親しめる環境をつくるなど、市民に役立つ図書館、利用される図書館をめざして取り組んでまいります。

今後とも町田市立図書館をよりよくするために、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2026年3月

町田市立図書館長
中嶋 真

目 次

■まえがき	3
■町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告（町田市立図書館協議会）	6
■評価項目	
<i>重点事業番号（『町田市教育プラン24-28』より）</i>	
16 子ども・若者の読書活動推進	12
18 学びにつなげる図書館体験	14
23 多様な図書館サービスの提供	16
33 図書館再編と運営体制の構築	18
39 地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援	20
※評価基準と用語の解説	22
中央図書館事業 2024年度 事業別行政評価シート(抜粋)	23

2026年2月10日

町田市立図書館長
中嶋 真 様

町田市立図書館協議会委員長
小山 憲司

町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告

1 はじめに

町田市立図書館協議会は、2025年9月26日付文書「2024年度図書館評価の外部評価について（依頼）」に基づき、「町田市の図書館評価」の外部評価機関として、2024年度の評価を実施しました。以下、その経過並びに評価結果を報告します。

2 外部評価の実施方法・スケジュール

『町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（2024年度分）報告書』における図書館所管分（5事業13指標）、並びに2024年度中央図書館事業について、外部評価を実施しました。

（1）方法

- ① 評価は全ての委員で担当する
- ② 1事業につき4名の担当委員を設定し、委員それぞれで評価案を作成する
- ③ 全委員で全項目の評価案の確認を行い、外部評価を確定する

（2）スケジュール

2025年9月26日 第21期第1回定例会で図書館外部評価の依頼を受ける
各事業について説明を受け、評価案について検討
その後、10月中に各自評価案を事務局に提出

2026年2月10日 第21期第2回定例会で評価案の全体確認と、外部評価に関する
報告の内容を確認。
その後、必要な修正を加えて提出

3 外部評価の結果

『町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（2024年

度分) 報告書』における図書館所管分(5事業13指標)、並びに2024年度中央図書館事業について、外部評価を実施しました。各事業に対し評価を記載しました。

4 外部評価実施による評価と提言

(1) 全体に関わる評価

2009年度より3期にわたって実施してきた外部評価は、2024年度から第4期となります。評価対象も3にあるとおり、『町田市教育プラン24-28』の図書館該当項目5事業13指標が対象となりました。併せて、年度ごとに市直営の図書館1館も評価することになり、2024年度は中央図書館が対象です。各項目に関して、次のとおり評価をまとめました。

1) 子ども・若者の読書活動推進

第五次町田市子ども読書活動推進計画を継続して策定した点は評価できる。今後は、計画に基づき、学校図書館を含む全市的な連携による読書活動の促進が期待される。また、若者参画による読書普及イベントは目標を上回り、「本の福袋」など子どもが新たな本に触れる機会を生む工夫も見られ、高く評価できる。一方で、こうした取り組みが十分に周知されていない点は課題である。全体として、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中、家庭環境による読書格差への対応、読書の意義を子どもに伝える工夫、学校との連携強化、不登校児童生徒への支援など、図書館が果たす役割は一層重要になっているといえる。

2) 学びにつなげる図書館体験

学びにつなげる図書館体験では、移動図書館の積極的な運行により、図書館を利用しにくい層へのアプローチが進んでいる点が高く評価できる。レファレンス事例の蓄積や地域に関するパスファインダーの整備も着実に進められており、利用者が調べやすい環境づくりを今後も継続してほしい。一方、図書館講座や体験事業は実施回数が増え目標を達成したものの、参加者数が限定的であることから、ターゲット設定の明確化が課題といえる。レファレンス件数は目標にわずかに届かなかったものの、これまでの実績を踏まえれば十分評価できる。他方で、生成AIが普及する時代におけるレファレンスの在り方を見据え、認知度向上や人材育成を進めることが今後の重要な検討課題となる。

3) 多様な図書館サービスの提供

障がい者サービスのPR、ボランティア養成講座、DAISY再生機器の貸出・操作支援のいずれも概ね目標を達成しており、取り組み自体は評価できる。一方で、サービスの質は件数ではなく利用者の満足度が重要であり、点訳ボランティア養成などはニーズ調査を踏まえた実施が求められる。ディスレクシア支援としてのリーディングトラッカーの貸出・提供やワークショップを通じたPR活動は評価できるが、子どもにとっても有効な支援であること

から、学校図書館との連携や周知の強化が必要である。また、本事業はいずれも読書バリアフリー法に基づくサービスとして位置づけられ、障がい者のみならず一般市民、外国人およびその子どもなど幅広い対象の認知と対応の強化が求められる。さらに、他自治体との連携や研修の充実など、サービス拡充に向けた取り組みが期待される。

4) 図書館再編と運営体制の構築

図書館再編と運営体制の構築に関しては、市民への丁寧な情報提供と対話の重視が共通して求められる。さるびあ図書館と中央図書館の集約では、意見交換会やアンケートの実施、結果の公表は評価できる一方、これらを形式的に終わらせず、市民ニーズを継続的に把握し、課題への対応を明確に示す必要がある。つるかわ図書コミュニティ施設は官民協働の新たな取り組みとして期待され、利用者の声を反映する工夫も評価できるが、補助金の在り方や持続可能な運営支援が課題である。また、指定管理者による鶴川駅前図書館の運営は概ね良好とされるものの、鶴川図書館の転換を踏まえ、両施設が地域住民にどのようなサービスを提供していくか検討が求められる。さらに、各館ごとの評価導入や文化施設との連携、SWOT 分析などの分析手法の活用、市民対立を避けた慎重な集約検討など、透明性と継続的評価を重視した運営体制の構築が必要である。

5) 地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援

市民向け絵本の読み聞かせ講座の開催回数や、おはなし会ボランティアの新規登録者数が目標を達成した点は評価できる。一方で、読み聞かせ講座は基礎編 1 回目や実践編で定員を下回っており、参加者の評価が概ね良好であることを踏まえると、講座内容に加えて周知方法や開催方法の見直しが求められる。おはなし会ボランティアは、応募者が定員を大きく上回るなどニーズの高さが示されており、受け入れ枠の拡大や他のおはなし会への誘導など柔軟な対応が望まれる。さらに、障がい者サービスにはボランティアだけでなく職員にも高度な専門性が必要であり、意見反映の仕組みや研修体制の充実が重要である。障がい者サービスボランティア養成講座が事前アンケートを通じて課題を把握し、実践的な内容を実現した点は高く評価できる。

6) 中央図書館事業

中央図書館は、図書館プランナーによる若者向け企画や多様なイベントの実施、電子書籍サービスの拡充、地域資料のデジタル化など、個々の事業を着実に推進しており、利用促進に一定の成果が見られる。システム更改に伴う休館の影響はあったものの、来館者数は月平均で増加し、登録者数も伸びている。一方で、貸出点数やリクエスト件数は減少傾向にあり、利用実態の丁寧な把握が課題である。イベントの参加者数は増加したのもあれば減少したのもあり、各回のばらつきも大きいことから、人的資源とのバランスを踏まえた実施計画の検討が必要となる。若者向け学習スペース「わいわいキャレル」や電子書籍サービスの

利用は増加しており、さらなる周知と利便性向上が期待される。同時に、多様な背景をもつ子どもたちの学びの場としての図書館の役割にも注目したい。財政が厳しい中で資料購入費を維持し蔵書の充実に努めている点は評価できるが、老朽化した施設の修繕は喫緊の課題である。中央図書館および町田市立図書館が抱える課題に対応するため、有資格正規職員の適切な配置や、市民との意見交換の場である図書館協議会での積極的な対話が求められる。

(2) 外部評価実施全体に関わる提言

4 (1) でも述べたとおり、2024年度の図書館評価は新たな方法で実施されました。その結果を踏まえ、次の2点を指摘します。

1) 外部評価そのものに対する意見

複数の委員から、外部評価の対象となる報告書や資料について、書式の不統一や記述内容のばらつきなど、体裁、内容の両面で問題点が指摘された。評価やその準備は業務負担の増加につながり得るが、図書館活動を市民に分かりやすく伝えることは、公共サービスを担う自治体の重要な責務であり、外部評価を図書館協議会に依頼する際にも同様の姿勢が求められる。『町田市の図書館評価：2023年度事業の評価結果』（以下2023年度評価）においても、各図書館の取組の見える化が課題として示されており、今後の改善が期待される。さらに、第21期第1回図書館協議会では、開催回数が2回となったことで委員同士の意見交換の機会が限られ、市民として意見を届けにくいとの指摘もあった。この点も2023年度評価の「2) 評価活動の課題」で「①外部評価における十分な時間の確保と、新委員への事前説明」として課題に挙げられている。これまでも丁寧な外部評価が実施され、それを図書館事業に生かしてきたからこそ、外部評価の適切な実施と実質化を一層求めたい。

2) 過去の評価結果との比較

2024年度の外部評価対象となった5事業のうち、図書館による評価はAが1、Bが4であった。内訳を見ると、計画以上の目標を達成した活動が6、目標を達成したものが6、目標に届かなかったものが3であった。目標に届かなかった活動が3つあるが、(1)で述べたとおり、いずれもほぼ目標に近い水準にあると考えられる。他方、2023年度はA(計画以上に目標を達成した)が7、B(目標を達成した)が4、C(おおむね目標を達成した)が8、D(目標に達しなかった)とE(目標を大きく下回った、実施できなかった)は0であった。評価指標が異なるため単純比較はできないものの、達成状況は概ね前年と同程度であり、計画に基づく事業推進に継続して取り組んでいる姿勢がうかがえる。

また、これまで繰り返し求められてきた資料購入費については、決算額で見ると2023年度の47,459千円から2024年度は46,625千円へと834千円の減額となった。市民一人あたりの年間貸出点数は6.82冊から6.19冊へ、蔵書回転率も2.52回から2.31回へと減少が続

いている。これらの数値のみで図書館活動を評価することはできないが、資料費は図書館運営の基盤であることから、今後も予算確保に向けた積極的な取り組みを期待したい。

5. 結び

図書館協議会は、「2024年度図書館評価」の外部評価機関として評価を実施しました。繰り返しになりますが、今回は新しい評価方法で評価に臨みました。その結果、評価項目に関わる図書館活動の目標は概ね達成されており、この点は高く評価できます。他方、市民による図書館利用は漸減傾向にあります。図書館活動の基本を維持しつつ、市民ニーズや社会情勢に応じた柔軟な取り組みが求められます。今後、本外部評価が図書館活動のさらなる向上に資することを期待します。

基本方針 I	施策5 学びのきっかけとなる機会を提供する		
重点事業16	子ども・若者の読書活動推進	所管課	図書館
目的	・子どもや若者が多種多様な情報から主体的に必要な情報を選び、自身の考えを形成する能力を身に付けることができるように、子ども・若者の読書活動を推進します。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「第五次町田市子ども読書活動推進計画(2025年度～2029年度)」を策定し、推進します。 ・読書や図書館に興味がわくようなイベントを実施し、子どもや若者が読書や図書館に興味をもつきっかけをつくります。 ・文学館では絵本や児童文学などを題材にした展覧会・イベントを開催し、絵本や物語の魅力を伝えます。 		
活動指標	指標	目標値(2024年度)	実績値(2024年度)
	①「第五次町田市子ども読書活動推進計画(2025年度～2029年度)」の策定と推進	策定	策定
	②若者が参画する読書普及イベントの実施件数	2件	5件
	③絵本、児童文学、漫画を題材にした展覧会の実施	実施	実施
2024年度の計画に対する達成状況	A 計画以上に目標を達成した		
達成状況の理由	①は目標を達成し、②は目標以上の成果を達成し、③は目標を達成し、さらに「チリとチリ展」では開館以来最高の来館者数であったため、A評価としました。		
2024年度の取り組み状況	<p>①国や東京都の計画や、子ども読書の現状を踏まえながら、町田市子ども読書活動推進計画推進会議に諮り、計画を策定しました。</p> <p>②イベントの企画運営を行う若者ボランティア「図書館プランナー(*)」が企画したイベントを5件実施することができました。</p> <p><実施企画>「本の福袋」企画、「恋と愛が叫びたがっているんだ 恋愛漫画推し語り会」、「図書みくじ」、「LLブック(*)のよみきかせ会」、「エコたわしをつくろう」</p> <p>③「チリとチリ展」を実施し、開館以来最高の17,134人の来館者となり絵本の世界を多くの人に知ってもらうことができました。また、会期中に実施した幼児から小学生を対象としたワークショップは、子どもたちが絵本の世界を楽しむ機会となりました。浅野いにおのミニ展示は、作品の映画公開に合わせて実施しました。</p>		
課題	<p>①子どもの不読率を下げるために、関係各所で連携して取り組む必要があります。</p> <p>②今後も活発な活動が継続してできるようにする必要があります。</p> <p>③子どもや若者が自ら本に興味をもてるよう、作品の選別、展示内容の工夫が重要です。</p>		
今後の取組の方向性	<p>①町田市子ども読書活動推進計画推進会議で、子どもの読書活動について関係各所と情報共有を行っていきます。</p> <p>②今後も「図書館プランナー」が活発に活動ができるように、サポートを行っていきます。</p> <p>③夏季企画展を中心に絵本等の作品世界を楽しめる展覧会を企画・実施します。</p>		

<外部評価>

外部評価者のコメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・「第五次町田市子ども読書活動推進計画」が継続して策定されたことを評価します。今後も、計画にしたがって基本目標の達成に取り組んでいくことを期待します。・多様な個性や背景をもつ子どもたちが増えている現在、小学校1クラス(35人)には「家にある本が少なく学力の低い傾向が見られる子」が12.5人(35.6%)いるという資料もあります。学校はもちろん、家庭・地域と連携を図り、今後も「第五次町田市子ども読書活動推進計画」を着実に進めることによって、「自ら進んで読書をする子どもを育てる」という基本理念の具現化を目指していってほしいと思います。・第一次からの20年あまりで、子どもを取り巻く環境は、スマホ等のデジタルデバイスがいとも容易に身近に存在する等、激変しました。それは小学1年生で本が読むことが好きと回答した6割から7割近い数字が、6年生では半減することにも関連していることが予想されます。このような環境下で「本を読む」ことを推進することには困難が予想されますが、今後も指針策定の継続を強く希望します。「なぜ私たちは読書を勧めるのか」を容易に理解できる表現、言葉で子どもたちへ伝えていくことも必要なかもしれないと感じました。 <p>・イベントの実施件数が目標2件に対して、5件を計画、実施できたことは高く評価できます。イベントの内容および参加者数はわかりませんが、例えばこの参加者数は多いのか、少ないのかなど、これを判断する材料があると良いと思います。また、イベントは実施するとともに、図書館プランナーによる企画や準備も重要な学びのプロセスです。イベントのふりかえりに関する情報も提供されるとなお良いと考えます。</p> <p>・「本の福袋」のように、子どもたちが本に触れる・まだ読んだことのないジャンルに触れるきっかけにも繋がっているほか、様々な工夫が凝らされているイベントが多く、とても良いと思います。ぜひ、このまま継続して行ってほしいです。</p> <p>・図書館プランナーの独自視点での多種多様な活動を高く評価します。「本の福袋」は日々、時間に追われる生活をおくる中高生が「本を読みたい」と感じたときに、敷居を低くするきっかけとなり得る企画と感じました。</p> <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・中学生以上の生徒の読書活動は公共図書館だけでなく、学校および学校図書館の果たす役割がとても大きいと考えます。学校図書館への専門職の配置などを含め、全市をあげて取り組んでもらいたいです。・図書館プランナーの活動が広く周知されていないことが懸念されます。大きな社会問題となっている不登校児童生徒が、学校以外の人と関わる場としての有意性も検討の余地があるのではないのでしょうか。学校との連携を進めていく上でのあらたな視点の検討を期待します。
------------	--

基本方針 I	施策5 学びのきっかけとなる機会を提供する		
--------	-----------------------	--	--

重点事業18	学びにつなげる図書館体験	所管課	図書館
目的	・市民の学びのきっかけとなるように、図書館サービスをより多くの人に体験してもらう取組を実施します。		
事業概要	・自分に合った図書館の利用方法を知ってもらうための講座等を実施します。 ・本との出会いをつくるため、移動図書館によるイベントへの出張運行や保育園・幼稚園への訪問活動を実施します。 ・暮らしの中で役に立つレファレンス事例を紹介するリーフレット等を作成するなど、レファレンスサービス(*)を身近に感じる取組を実施します。		
活動指標	指標	目標値(2024年度)	実績値(2024年度)
	①図書館講座・図書館員体験の実施回数	8回	11回
	②移動図書館の出張運行箇所	12か所	13か所
	③レファレンス件数	4,000件	3,978件

2024年度の計画に対する達成状況	B 目標を達成した		
達成状況の理由	①②は目標以上の成果を達成し、③は目標に一步届かなかったため、B評価としました。		
2024年度の取り組み状況	<p>①図書館の活用方法などを学ぶ講座・体験等を合計11回実施しました。講座等の総参加者数は172人で、特に、夏休み期間に行った中高生向け講座・謎解きイベント「まちクエ2024」は大人も含め127人の参加があり、図書館を知ってもらう良い機会を創出することができました。</p> <p><開催した講座等> 図書館入門講座、調べもの講座、小学生向け講座、中高生向け講座、絵本講座、まちだ探・探ゼミナール(生涯学習センター共催)、大学図書館を使ってみよう(和光大学共催)、一日図書館員(4回)</p> <p>②イベント会場や保育園・幼稚園など子どもの集まる場所へ13か所、73回実施し2,586人の方にご利用いただきました。会場では本の貸出やおはなし会を行い、日頃図書館を使用しない方も含め、図書館サービスを体験してもらうことができました。</p> <p>③2024年度のレファレンス件数は、3,978件でした。関連事業として、レファレンス事例や資料を紹介する「レファレンス通信」を2回発行、パスファインダー「医療情報編」3種類の改訂、レファレンス事例をインターネットで27件公開するとともに国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」にも公開しました。</p>		
課題	<p>①講座の募集において内容がわかりにくいものがあったため、内容の整理やPR方法の工夫をする必要があります。</p> <p>②図書館サービスを多くの方へ体験していただくために、子どもが集まる場所を中心に新たな運行先を増やす必要があります。</p> <p>③レファレンスについては、サービスの認知度の向上と、充実に向けた人材育成を行う必要があります。</p>		
今後の取組の方向性	<p>①それぞれの講座で重複する部分などの整理を進めて、効果的に講座を開催できるようにします。</p> <p>②保育園や幼稚園などへのニーズ調査や出張運行のPR活動を行い出張運行先の拡大に取り組みます。</p> <p>③レファレンスについては、既存の取組を継続するとともに、その内容を情報発信することで多くの方にレファレンスサービスを活用してもらえようようにします。</p>		

<p>外部評価者のコメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用者、支援者を増やすとともに、図書館への理解を深まるよう、引き続き講座を開催していくことを期待します。 ・目的が「市民の学びのきっかけ」とあるように、ターゲットが広過ぎるよう思われます。成人が図書館を初めて利用することは考えにくく、ターゲットを絞った方がねらいを明確にできます。実際に①②は児童・生徒・学生向けのイベントや運営となっており、大人向けの講座等は数も少なく参加人数も多いとは言えません。 ・報告書の書式、内容に統一がなく、レベルにも差があり、評価がしにくいです。 ・広く体験の機会を設けて、実施していることは高く評価できます。参加者数は利用者に対して決して多いとは評価できませんが、こうした地道な仕事が直営図書館の役割と考えます。 ・全体に反省が細かいことが多いです。きちんとすることは大事ですが、実績が上がっているのだからあまり神経質にならず、利用者サービスを考えて良いと思います。 <p>・移動図書館の出張運行を積極的に進めており、日常で図書館を利用しない人、しにくい人にアプローチできていることは好ましいことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い市に対し、8か所しか図書館のない町田市にとって、移動図書館を知ってもらうのは重要な業務です。人員の確保の難しさや天候に左右されるなど困難な課題があるなか、目標値を上回ったことは高く評価できます。 ・特に図書館へ出向くのが困難な利用者、一人では行けない子どもたちに、その存在を知らせ、そこに「本への窓口」があることへの気づきをもたらすことができるのは「情報に接することの公平性」のうえでも有効と考えます。貸出冊数こそ少ないものの、移動図書館で本を借りる体験ができるのは、子どもたちにとって、数字ではカウントできない意味があると評価できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス事例を蓄積、紹介するとともに、パスファインダーなどの情報源を継続的に整備していることを高く評価します。特に、地域に関するパスファインダーを多く提供していることは好ましいことです。 ・引き続き、積極的にレファレンス事例を蓄積、紹介していくとともに、パスファインダーの拡充など、利用者が調べやすい情報源、環境の提供を進めていくことを期待します。 ・レファレンスに関しては、人材育成も大切ですが、利用してもらうには認知度をさらに上げていく必要があると思いますので、そういった取り組みを今後も継続して行ってほしいです。 ・従来から町田市立図書館のレファレンスはレベルが高いものであり、目標に達しないといっても僅かであり、Aを付けられないまでも、十分評価できると思います。 <p>レファレンス自体が日本では知る人だけが知る馴染みのない分野であるうえに、今ではネット検索で多くのことが「分かった」と思われている状況なので、認知度の向上には一層の工夫が求められると思います。課題にある通り、「充実に向けた人材育成」は大変重要であり、家のネットで十分だったなどと思われないよう、人材、ツールを充実させていただきたいです。</p> <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが集まる場所への拡充が課題とされていますが、病院や福祉施設など、図書館へのアクセスが難しい人、場所への運行の拡充も検討されることを期待します。 ・レファレンス件数は、件数ではなく、貸出冊数や利用者数との相関関係などのパーセンテージ推移を指標とした方が合理的と考えます。生成AI全盛の時代に、図書館におけるレファレンスは、専門知識をもつ図書館司書やそれに相当する図書館員など人間が対応するものと、AIを含む情報通信機器によるもの、そしてそれらを複合的に活用するものの3種類になっていくと思われます。レファレンス担当者のスキル向上の取組を指標とすることも必要であると考えます。 ・レファレンスについては、個人の調べものをするツールが普及したこともあり、図書館ならではの機能をより積極的にアピールしていく必要があると思われれます。国立国会図書館との連携等は学びをより深めるための情報を身近で得られる機会です。このような情報を広く市民が知っている必要があると考えます。
-------------------	---

基本方針II	施策3 誰もが学べる機会を提供する		
重点事業23	多様な図書館サービスの提供	所管課	図書館
目的	・全ての人が自分の利用しやすい方法で読書ができるよう、読書バリアフリー法に基づいたサービスを提供します。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・対面朗読、音訳資料や点訳資料の製作・貸出、資料の郵送貸出サービスなどを行い視覚障がい者等へサービスを提供します。また、図書館への来館が困難な市民に向けて宅配サービスを提供します。電子書籍の特性を生かし、来館が困難な市民の読書を支援します。 ・展示等によりディスレクシア(識字障がい)等を含めた障がい者サービスのPRを行い、利用を促進します。 ・対面朗読などを行っているボランティアの技術向上に向けた講座や、新たにボランティアに興味をもてるような講座を開催します。 ・デージー(デジタル録音図書)再生機器の貸出や操作支援をすることで、障がい者のデジタル資料の活用を促進します。 		
活動指標	指標	目標値(2024年度)	実績値(2024年度)
	①障がい者サービスPR展示等の実施件数	5件	8件
	②障がい者サービスボランティア養成講座の受講者数	10人	9人
	③デージー再生機器貸出・操作支援	実施	実施
2024年度の計画に対する達成状況	B 目標を達成した		
達成状況の理由	①は目標以上の成果を達成し、②は目標達成まであと一歩届かず、③は目標を達成したため、B評価としました。		
2024年度の取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ①8件の取組を実施し、サービスの周知をはかりました。 <実施事業> 中央図書館障がい者サービスフロアにサービス周知の掲示物を設置、マルチメディアDAISY上映会、リーディングトラッカー作りのワークショップ、点字絵本の特集コーナーを毎月設置、リーディングトラッカーの貸出、若手教員育成研修でマルチメディアDAISYの紹介、児童向け点字体験会、図書館プランナーによる「LLブックのよみきかせ会」 ②点訳ボランティア経験者向けの技能向上講座を行い、9人の参加がありました。 ③2024年度から貸出制度を開始し、2件の貸出及び操作支援を行いました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ①必要な方にサービスを利用してもらえるよう、PR展示などの広報を継続する必要があります。 ②ボランティア側の実施ニーズを調査し、効果的な講座を企画実施する必要があります。 ③貸出制度が始まったばかりであることから、対象者への周知を行う必要があります。 		
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ①多くの方の利用につながるよう、展示やイベントなどの実施内容の改善を行います。 ②ニーズ調査を行い、効果的な講座を引き続き企画・実施します。 ③制度を周知し、必要とされる方に貸出を実施するとともに、デージー再生機器以外の読書支援ツールについて情報収集をします。 		

<p>外部評価者の コメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・PR展示等の実績件数が目標値以上の実績となったことは、多様性に向けての図書館の取組みが広く市民にも伝わる内容であり評価します。ディスレクシア等に向けてのPR活動は子どもたちの日々の学校生活でも合理的配慮の促進へつながるよう、今後も周知促進のためにも継続実施を希望します。・活動指標①②③とも目標値をほぼ達成できていることは一定の評価ができます。しかし、バリアフリーのサービスが提供できているかどうかは件数ではなく、満足度が高いかどうか重要です。・図書館プランナーによる「LLブックのよみきかせ会」は若い世代の力を有効活用しているとても良い例だと思います。 <p>・ボランティア養成講座は目標値まであと一歩でしたが合格点はクリアしていると思います。講座の報告書に説明がありましたが、事前にアンケートをとり受講者の普段から思っている疑問点に対して講師が答えるスタイルはとても効果的な進行方法だと思います。</p> <ul style="list-style-type: none">・講座などは、図書館側の課題として挙げている「ニーズ」があるかどうかの調査・分析も重要だと考えます。・障がい者サービスには専門的な意識とスキルが必要であり、ボランティアや担当職員のスキルアップが求められます。事前アンケートで課題を把握し、実践的な講座を開催した点が高く評価できます。今後も参加者のニーズに応じたきめ細やかな対応を期待します。 <p>・デイジーについての情報が広く市民に届いているか、検討の余地があると感じます。</p> <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・普段、図書館になじみのない人へのPRを強化してほしいです。広報まちだでのさらなる周知やSNSでの発信も今後は必要になって来ると思います。・ディスレクシアに対するサービスとして、リーディングトラッカーの貸出や提供は、中央図書館だけでなく、学校図書館でも必要と考えます。中央図書館による学校図書館支援の際に、図書委員を対象としたリーディングトラッカー作成講座を行うなどの検討もしていただくと良いのではないのでしょうか。・ボランティア養成講座の実施について、実施は実務事業者向け「中級講座」であったようですが、今後、高度な技術を要するものでなければ、大人だけでなく中高生対象のものを企画する等、ボランティアのすそ野を広げていくことも検討できるのではないのでしょうか。・他のボランティアへのスキルアップのための講座も不定期でもいいので開催を望みます。また、近隣の自治体の図書館で同じサービス内容のボランティアを行っているところがあれば連携して講座を開催できれば広がりが生まれと思います。・より多くの人にマルチメディアDAISYを紹介する機会が必要だと思います。図書館で行っているイベントの中で操作体験コーナーを設けたり、特に学生さん向けの体験会を行うことが効果的であると思います。・この項目については単に障がい者サービスという観点からではなく、今後一層の推進が求められる「読書バリアフリー法」に基づき、バリアフリー・サービスとして、対応する必要があります。特に、ICTやAIの積極的な導入として、デジタルメディアデイジーの一層の活用など、絵本あるいは障がい者対応のみならず、一般的な市民への情報提供サービスとして位置づけることを提案します。また増え続ける外国人への対応として、具体的には各図書館に「リンゴの棚」(ニーズのある子どもを対象とした公共図書館サービス)の設置 など 他の先進地域の方策に学ぶことが必要です。そして、そのためには国や都との連携及び他地区の図書館での研修の実施なども必要だと思われます。
------------------------	--

基本方針III	施策2 学び続けることができる環境を整備する		
重点事業33	図書館再編と運営体制の構築	所管課	図書館
目的	・図書館サービスを安定的に果たし、新たな価値を創出するために、図書館の再編と運営体制の効率化について検討を行います。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・さるびあ図書館と中央図書館の再編においては、地域住民との対話を通じて最適な集約方法を検討します。 ・再編後の鶴川図書館について、地域住民の参画を進め、地域と「共に創り」「共に運営する」図書コミュニティ施設(*)へと転換します。 ・図書館全体の効率的・効果的な運営体制の検討・構築を目指します。 		
活動指標	指標	目標値(2024年度)	実績値(2024年度)
	①さるびあ図書館と中央図書館の集約	検討	検討
	②鶴川図書館の図書コミュニティ施設への転換と運営支援	図書コミュニティ施設準備	図書コミュニティ施設準備完了
	③図書館全体の運営体制の検討・構築	検証	検証
2024年度の計画に対する達成状況	B 目標を達成した		
達成状況の理由	②は2025年度開設に向けた準備を完了することができ、目標以上の成果を達成しましたが、①③は目標達成であったためB評価としました。		
2024年度の取り組み状況	<p>①地域住民との意見交換会を2回、子ども若者世代との意見交換会を1回実施しました。また、町田地区にお住まいの方1,500人を対象とした無作為抽出アンケート調査を実施し、525人から回答を得ました。</p> <p>②5月から、「(一社)つるかわ図書コミュニティ施設運営協議会」がコミュニティスペースの運営を開始し、利用者との意見交換や工作などを企画・実施しました。また、施設の愛称を地域で募集するなど、地域での関係を深めながら、施設の開設準備を完了させました。さらに、町田市立図書館条例の一部改正、施設運営事業に関する補助金交付要綱制定などを行いました。</p> <p>③指定管理者が運営する鶴川駅前図書館について、学識経験者2名で構成される管理運営状況評価委員会を開催し、2023年度の運営状況の評価結果の検証を行いました。利用者満足度や来館者数が目標を達成していることを確認し、施設の運営状況が良好であることを確認しました。また、鶴川図書館において、地域と共にコミュニティスペースの運営を開始しました。</p>		
課題	<p>①これまで地域からいただいたご意見をふまえ、最適な機能再編方法の決定に向けた検討を行う必要があります。</p> <p>②2025年5月からの運営がスムーズに行われるよう、運営団体の支援をする必要があります。</p> <p>③図書館全体の効率的・効果的な運営につながるよう、指定管理者の運営状況をモニタリングするとともに、つるかわ図書コミュニティ施設の効果検証手法を検討する必要があります。</p>		
今後の取組の方向性	<p>①機能再編方法の決定に向け、引き続き検討を進めます。</p> <p>②地域でのコミュニティづくりが進むよう支援を実施します。</p> <p>③引き続き毎月の運営状況の確認、評価委員会での検証を進めていきます。また、つるかわ図書コミュニティ施設の運営状況について効果検証を行います。</p>		

<p>外部評価者のコメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれの事業も、市の方針および財政に直結する課題であることは認識できますので、市民への情報提供を十分に行うとともに、市民目線での検討が重要です。市民との対話が複数回行われていること、アンケート調査により市民の意見を聴取していることなどは評価できますが、これらにとどまらず常に市民のニーズにも敏感であってほしいです。 ・さるびあ図書館と中央図書館の集約について、アンケートが行われ、その結果が公表されていることは好ましいことです。形式的な意見聴取にならないよう、説明会やアンケートのなかで示されてきた課題について、どのように対応できるのか、ひとつひとつ丁寧にまとめていくことが重要と考えます。 ・町田市ホームページで取り組み状況や経過が丁寧に公開されています。地域住民との意見交換会は2023年度に3回、2024年度に3回開催され、子ども・若者の意見交換会では安心して意見表明できる環境が整えられていたことは高く評価できます。 ・一般市民対象の意見交換会では反対意見が多く、少数意見が表明しにくい状況が見られたため、心理的に安心して発言できる環境づくりが必要です。ぜひ検討してください。 ・個別の意見交換会は回数が多いものの参加者が1人と少ないことが課題であり、周知方法の改善が必要とされます。 ・中央図書館とさるびあ図書館の集約に関する市民意識調査は有効と評価します。調査協力者への説明責任として、図書館としてデータの活用法、調査結果の分析(課題と改善等)等を公表することも検討してください。 ・市民との対話を丁寧に重ねていくことを希望します。また市民同士での対立が生まれることがないように、集約への検討には時間をかけていくことも希望します。 <p>・「つるかわ図書コミュニティ施設」は新しい取り組みです。民間によるあらたな図書サービスの充実を期待するとともに、市立図書館による適切な支援も求めたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との対話を重ね、官民協働で準備を進めた結果、施設を無事開設し、地域に根付いた新たな事業として高く評価します。運営は補助金事業で行われており、スタッフがボランティアではなく仕事として従事できるような体制にするべきです。持続可能な施設とするため、スタッフの声を聴きながら支援を続けることを期待します。また、イベントを通じて利用者の意見を集める取り組みが評価されており、地域の財産として丁寧な運営を期待します。 ・長年地域に親しまれてきた鶴川団地図書館が、運営形態は変化しても、本のある場所が存続されたことを評価します。一方、つるぼんの運営においては、収益事業が何もないことから市の支援が必須のため、図書の内容、スタッフの質、運営の質等を落とさないためにも、今後、予算削減等がされることがないように希望します。 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館全体の運営体制の検討・構築については、指定管理者制度が導入されている鶴川駅前図書館について、管理運営状況評価委員会が開催されていることを高く評価します。全体として良好という評価となっていますが、これまでの委員会で指摘されている課題が解消されるよう、改善を図っていくことが重要であるといえます。 ・鶴川駅前図書館は来館者数と利用者満足度が向上し、運営が順調であると高く評価します。また、管理運営状況評価委員会を設けることは、自己評価の適正性や公正性の検証を補完する上で必要であり、それを公表する自治体の姿勢は評価できます。しかし、検索しにくいため、手順の公開などの改善が必要とされています。 ・指定管理、コミュニティ施設となった後も、公共サービス時と同様、誰もが便利に充実して利用ができるようモニタリングの継続実施、評価の継続、支援の継続を望みます。 <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴川図書館の図書コミュニティ施設への転換と運営支援については、どのような支援が可能なのか丁寧に示していくとともに、鶴川図書館が転換したことをふまえ、鶴川駅前図書館の拡充や移動図書館の運行など、これまでの鶴川図書館の利用者が不利益を被らないよう、どのようにサービスを展開していくのか検討する必要があります。 ・施策の「学び続けることができる環境を整備する」ことは大切な方向性です。さるびあ図書館が町田市独自の移動図書館として大いに機能していると考えます。今後とも市民に対する読書及び読書活動のアウトリーチとして期待しています。 ・図書館の運営については、度々申し上げているように各館ごとの評価が必要です。中央図書館の評価として事業別業績評価シートが提示されていますが、これと同様に他の図書館でも実施する方向も良いでしょう。ただし、このシートは数値的な部分を含めかなり複雑であるので、各館の内部評価を含む利用者の反応など、簡単なシートで良いので実施することが望まれます。 ・図書館運営については、市民文学館(ことばらんど)や国際版画美術館、自由民権資料館などとのコラボ企画も大いに検討・採用していただき、まさに「地域とともにつくり」共に運営する」図書コミュニティ施設を町田全域で展開することを希望しています。 ・鶴川図書コミュニティ施設の動向について、今後の他館との関係も含め、この方向の現状と課題、可能性や留意点などSWOT分析を実施することをご提案します。 ・全般的に活動指標に対する目標値と実績値を踏まえて、指標に対する評価をABCD 4段階で行うと良いと思われます。それに基づき達成状況評価を示すことが良いと考えます。
-------------------	--

基本方針IV	施策2 地域での学びを推進する		
重点事業39	地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援	所管課	図書館
目的	・魅力的な本と出会い読書に関心をもってもらうため、本と触れ合うことができる活動がより地域で活発に行われるよう、地域や学校で活動するボランティアを支援します。		
事業概要	・おはなし会など本に関する活動を行うボランティアを育成するとともに、ボランティアが行うおはなし会の開催を支援します。 ・点訳や音訳のボランティアの技術向上や、おはなし会を実施できる担い手の裾野を広げるための講座を開催します。		
活動指標	指標	目標値(2024年度)	実績値(2024年度)
	①市民向け絵本の読み聞かせ講座(基礎編、応用編、実践編)の開催回数	3回	3回
	②おはなし会ボランティアの新規登録者数	5人	14人
	③障がい者サービスボランティア養成講座の受講者数(再掲)	10人	9人
2024年度の計画に対する達成状況	B 目標を達成した		
達成状況の理由	①は目標を達成し、②は目標以上の成果を達成し、③は目標達成まであと一步届かなかったため、B評価としました。		
2024年度の取り組み状況	①市内の小学校や学童クラブなどで読み聞かせに関わる活動をしている保護者等を対象として、基礎編を2回、実践編を1回実施しました。 ②絵本の読み聞かせを主に行うおはなし会ボランティア養成講座を新規に開催し、ボランティア登録をしていただきました。受講者は15人、修了者は14人でした。 ③点訳ボランティア経験者向けの技能向上講座を行い、9人の参加がありました。		
課題	①講座内容が固定化しており、興味を引くような新たなテーマでの講座の開催について検討する必要があります。 ②登録をしていただいたボランティアへの活動支援を実施する必要があります。 ③ボランティア側の実施ニーズを調査し、効果的な講座を企画実施する必要があります。		
今後の取組の方向性	①新たなテーマを設定し講座を開催します。 ②ボランティアの方が図書館でのおはなし会を担っていけるように活動支援を行います。 ③障がい者サービスボランティア養成については、ニーズ調査を行い、効果的な講座を引き続き企画・実施します。		

<外部評価>

外部評価者のコメント	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年の不読率は小学校8.5%、中学校23.4%、高等学校48.3%でした。しかもどの校種も前年より増加しているという結果です。何とか“読書離れ”に歯止めを掛けたいところです。やはり未就学児から小学校高学年までに行う「読み聞かせ」は有効な方法の一つではないでしょうか。「読み聞かせ」によって触れることのできる本の世界や、読んでくれた人との交流が、子どもの読書習慣に大なり小なり影響を与えるに違いありません。そうした担い手を育成する取組を今後も力強く進めていただきたいと思えます。・日々の子ども支援活動の中で、子どもたちが本に出会う機会を増やしていくことは、幼少期の環境が肝心であると感じています。身近な場所できっかけづくりをしてくれる大人が存在することは、とても大きな影響力を持ちます。引き続き、ボランティア育成・支援の充実を望みます。 <p>・市民向け絵本の読み聞かせ講座は目標値を達成したこともそうですが、開催場所による定員の設定や講座の進行方法を熟慮されたことがうかがえたので評価します。</p> <ul style="list-style-type: none">・講座を年に3回も開催するのは、準備や事後処理の仕事量から考えれば高く評価できます。しかし、どのような方針で、どのような内容の講座なのか回数より重要であり、そこも評価対象にできると良いと思えます。・講座開催数は目標を達成したことは評価できますが、定員を下回る回もあり、周知方法や開催方法の改善が必要と考えます。担当者間で丁寧に振り返りをされていることは評価できます。しかし、会場の広さの都合で定員を減らすとの記載があり残念です。会場変更など参加者のニーズを優先した工夫が求められるので、検討してください。 <p>・おはなし会ボランティアの新規登録者数は、大幅に目標値を上回ったことは評価します。応募者29名で定員の関係で15名しか当選として出来なかったのは非常にもったいない気がします。</p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティア登録者数は目標を大きく上回り、受け入れ努力を高く評価します。 <p>ボランティア支援は図書館サービス推進の重要な方針であり、モチベーション向上につながる丁寧な取り組みを期待します。</p> <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・さらなるボランティアのスキルアップのために、講座の回数を増やすことを望みます。図書館の職員さんの負担も考慮して、講座を丸ごと引き受けてくれる団体等に委託する方法も検討してほしいです。・応募者が定員を上回った場合は、他のおはなし会への誘導や補欠要員として登録の余地もあるといいと思えます。・ボランティアについては、ホームページで登録からフォローアップ体制を明示することで、計画が立てやすくなるのではないのでしょうか。
------------	---

【2025年度町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価（2024年度分）報告書より・・・「達成状況の評価基準」】

評価		達成状況の基準、考え方
A	計画以上に目標を達成した	効果的で優れた取組を行い、目標を大きく上回る成果があった。
B	目標を達成した	効果的な取組を行い、施策の目的達成に向けて大きな成果があった。（達成率 100%～90%）
C	おおむね目標を達成した	効果的な取組を行い、施策の目的達成に向けて一定の成果があった。（達成率 89%～70%）
D	目標に達しなかった	取組を行い、一定の成果はあったものの、課題や問題点があった。（達成率 69%～50%）
E	目標を大きく下回った、実施できなかった	取組を行わなかった、または行ったものの成果があらなかった。大きな課題や問題点があった。（達成率 49%以下）

【用語の解説】 *印

<p>●図書館プランナー 15歳から25歳までの図書館でのイベントの企画や運営を行うボランティアのこと。</p>
<p>●LLブック 誰もが読書を楽しめるように工夫してつくられた、「やさしく読みやすい本」のこと。</p>
<p>●レファレンスサービス 利用者からの様々な調べものについて、図書館の資料や機能を活用してお手伝いするサービスのこと。</p>
<p>●図書コミュニティ施設 本を介して目的や用事がなくても気軽に過ごせる地域の居場所となるよう、本の閲覧や貸出を行う「図書提供機能」と、利用者同士や地域の方々との会話や地域活動等を生み出す「コミュニティ機能」を併せもつ、地域の方々が主体となって運営する施設。</p>

2024年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	中央図書館事業
		事業類型	2.施設運営型

1.事業概要

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則						
		2022年度	2023年度	2024年度	施設の名称	町田市立中央図書館		
	蔵書数(視聴覚資料含む)	580,278点	581,259点	584,142点	建設年月日	1990年4月16日		
	予約・リクエスト件数	157,344件	134,937件	128,250件		2022年度	2023年度	2024年度
	貸出者数	295,924人	281,263人	264,858人	有形固定資産減価償却率	63.6%	66.1%	68.6%

2. 2023年度末の総括と2024年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、必要なサポートを行います。
- ◆電子書籍サービスにつきましては引き続き利用促進に取り組む必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆若者からの提案を実現できるよう、中央図書館でのバックアップに取り組めます。◆電子書籍サービスの利用促進のためさらなるPRに取り組むとともに、学校との連携を継続し、児童・生徒の読書活動の支援を行います。◆消防設備点検結果を活用し、防火シャッターや排煙口改修工事など修繕を行います。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む中央図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。	
取組状況	◎ 高校生・大学生を中心とした図書館プランナーが企画したイベントを、5件実施しました。	◎ 電子書籍サービスは各種イベント等図書館以外の場所でもPRすることで、2023年度より14,815点増加し119,112点の貸出がありました。	○ 図書館の活用方法を知ってもらうための講座や体験等のイベントを開催し、185人の参加がありました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む、電子書籍は含まない)
		実績	848,298	809,106	762,815		(2025年度)	
来館者数	人	目標	612,000	612,000	612,000	612,000	612,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	526,063	546,529	538,159		(2025年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆システム更改による休館の影響もあり2023年度と比較して来館者数は8,370人減少しましたが、月平均では増加しています。◆英語図書の活用や英語多読の周知のため、2回開催した英語多読講演会に29人、保護者向け(親子で参加)英語絵本読み聞かせ講座に13組の参加がありました。◆小・中学生の創造的思考力を育むため、デジタルツールを使った創作体験講座を開催し17人の参加がありました。◆図書館プランナーが企画したイベントを5件実施し、16人の参加がありました。◆中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」は延べ290組724人が利用しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2022年度	2023年度	2024年度	差額	勘定科目	2022年度	2023年度	2024年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	331,027	343,202	384,444	41,242	地方税	0	0	0	0
物件費	162,562	134,109	174,597	40,488	国庫支出金	0	1,290	9,927	8,637
うち委託料	58,705	58,038	101,290	43,252	都支支出金	8,520	8,963	12,180	3,217
維持補修費	5,026	9,657	3,774	△ 5,883	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	54,984	54,172	54,543	371	その他	1,605	1,394	4,188	2,794
減価償却費	34,830	34,830	34,830	0	行政収入 小計(a)	10,125	11,647	26,295	14,648
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 640,897	△ 615,379	△ 705,553	△ 90,174
賞与・退職手当引当金繰入額	62,593	51,056	79,660	28,604	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	651,022	627,026	731,848	104,822	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 640,897	△ 615,379	△ 705,553	△ 90,174

5.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆おはなし会は延べ77回835人の参加がありました。夏休みイベント子ども向けクイズ「まちくエキッズ」は全問正解者79人でした。中学生から大学生向けの「一日図書館員」は延べ4回13人の参加がありました。「本のおたのしみふくろ」は258袋773冊の貸出しがありました。◆こども映画会の参加者は155人、青少年映画会「Yシネマ」は64人、通常の映画会は全28回2,047人になりました。◆障がい者サービスのPRのため、マルチメディアDAISY上映会やリーディングトラック作り、点字体験会などを行いました。◆機器類を持たない方が電子書籍サービス等を利用できるようにタブレット端末を用意し、88回貸出を行いました。◆第1号から掲載してある『広報まちだ縮刷版』等の地域資料98点、『まちだガイド』等の地図7点をデジタル化して電子書籍サイトに公開しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆人件費は、職員構成の変動などにより41,242千円増加しました。◆物件費は、新図書館システム導入委託料の増加などにより40,488千円増加しました。◆維持補修費は、空気調和設備改修工事が完了したことなどにより5,883千円減少しました。◆国庫支出金は、デジタル田園都市国家構想交付金の増加などにより8,637千円増加しました。◆都支支出金は、市町村総合交付金の増加などにより3,217千円増加しました。◆その他行政収入は、ふるさと納税の増加などにより2,794千円増加しました。◆財源確保のため2025年2月から自動販売機を設置し、行政財産貸付料と売上分配金あわせて69千円の収入がありました。

③2024年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆電子書籍サービスの認知度はまだ低いと考えられるため、利用促進に向けた取り組みが必要です。
- ◆非来館で登録・更新可能など新図書館システムの機能についてPRし、新規利用者を増加させます。
- ◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、サポートを行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆電子書籍サービスの利用促進のためさらなるPRに取り組むとともに、学校との連携を継続します。◆新図書館システムになり来館せず利用者登録ができること、電子書籍サービスが利用できることをPRし、新規利用者を増加させます。◆若者からの提案を実現できるよう、中央図書館でのバックアップに取り組めます。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む中央図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。	

【評価】

- ・2023年度の総括を踏まえ、個別取組のいずれも推進できたことは評価できます。図書館プランナーによる活動は全国的にも図書館利用が少なくなるとされるティーンエイジャー世代への働きかけとなります。また、図書館の活用方法を積極的に発信する姿勢も評価できます。今後も継続して取り組んでもらいたいです。
- ・図書館プランナーなどの若年層による提案、イベントの実施などは、若年層の利用促進だけでなく、地域住民の参加を実現している点でも好ましいといえます。さらなる拡充を期待します。
- ・これから長く図書館を利用する存在である高校生・大学生を中心とした図書館プランナーの企画したイベントを実施できたことは評価に値します。
- ・図書館プランナーが2023年度に計画・準備した成果として、2024年度に5回のイベントを実施し、若者の合意形成や利用促進活動への自信とモチベーション向上につながったことが評価されています。今後の活性化と若者のさらなる活躍への支援が期待されています。

- ・中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」の利用者が延べ290組724人でしたが、土日祭日のみで最大4組というのは、需要を満たしているのでしょうか。圧倒的に2人での使用が多いようなので、4組という制限を外してもよいと考えます。また、可能なら平日の16時以降の開放も検討してはいかがでしょうか。
- ・わいわいキャレルなど若者の利用が増えています。周知の方法を工夫して更なる若者の利用促進に繋がることを期待します。

- ・地域資料のデジタル化が本格的に着手され、また、市外も含め、電子書籍のウェブサイトで広く公開されていることを高く評価します。ひきつづき、コンテンツが拡充されていくことを期待します。
- ・電子書籍サービスの貸出冊数が、2023年度に比べ12.4%増加しています。中央図書館にしかできない実本の収集や貸出ももちろん重要で、こちらがおろそかになってはいけませんが、コスト面で優位な電子書籍の活用は、新たな利用者層の開拓になります。今後も充実を図っていただきたいと思います。
- ・電子書籍サービスの利用促進のためのPRも図書館以外の場所で行ったりした工夫が見られたことは評価します。

- ・財政の厳しい折、資料購入費を維持し、蔵書の充実を図っていることは評価できます。他方、コロナ禍が明けて以降、貸出点数、およびリクエスト件数が減少傾向であり、成果指標の目標に達していないことも事実です。全体では登録者数、新規登録者数が伸びていることから、図書館への関心は高いものと思われます。市民が図書館のどのサービスを利用し、または利用していないのか、ニーズが満たされているのか、満たされていないかなど、詳細な実態把握も必要であるように思われます。
- ・来館者数が経年的に微増しているなかで、貸出点数が大きく減少しており、空間の提供、電子書籍サービスなど、ひきつづき、どのような利用がなされているのかを丁寧に把握していくことが重要であるといえます。
- ・システム更改に伴う休館の影響もあり、来館者数は微減となりましたが、月平均では増加したとのこと。中央図書館ならではの蔵書数の多さや、多様なイベントの実施が功を奏した結果と評価できます。ただ、イベントの参加人数が極端に少ないものも多く実施されていますが、少なくとも実施していくという明確な目標のあるものを除いて、人的資源の効率化と照らし合わせてイベントの精選を図っていく必要もあると考えます。
- ・事業の成果について、来館者数は目標達成88%ですが、貸出点数は67%にとどまっています。電子書籍が含まれていないためとも言えますが、図書費の低さによることは明らかだと思われます。
- ・図書館の活用方法を周知するための施策については、館内の掲示スペースにポスター等を張りフルに活用している印象です。イベントも沢山開催されている印象で評価します。
- ・電子書籍サービスIDの付与やPRイベントにより貸出が増加し、休館期間があつたにもかかわらず来館者数も増加したことは評価できます。一方で、おはなし会や英語多読イベントの参加者減少が課題とされ、今後の改善が期待されます。
- ・新システム導入や施設の修繕に経費がかかる中、予算削減の状況でも図書館再編や市民との対話・検討に丁寧に取り組んでいる点が高く評価できます。
- ・5. 総括について、①②の「分析」の意味がよく分かりません。人数、実績などを掲げられても、それをどう評価すべきなのか、この記載では不明です。③④共、大雑把で、確かにそうでしょうとしか言いようがないです。2-②で「電子書籍サービス」の項目が◎になっているにも関わらず、5-③では「電子書籍サービスの認知度が低い」とされています。目標を達成しているのに、認知度は低いというのは関係性がよく分かりません。
- ・「若者からの提案」は募集の結果ですので、「その実現に向けてサポート」は募集しているのだから当然の業務と思われるのですが、当然の業務も「課題」なのか疑問です。

【関連事項提言等】

・中長期的な取り組みとして「中央図書館の修繕」が挙げられています。利便性という点では申し分のない立地であるので、安心、安全に利用できる快適な図書館空間を目指してもらいたいです。
・中央図書館は駅近という絶好な立地環境にあります。街のインフラとしても重要な拠点になると考えます。開館から35年がたちますので建物の老朽化を防ぐ修繕に関する施策は重要視してほしいと思います。予算の確保もお願いいたします。

・大人向けイベントの図書館活用講座と入門講座はいずれも参加者が5名だけでした。気軽に参加してもらえるように、ニーズの合った開催時期の設定や開催回数を増やすことを希望します。

・電子書籍サービスの認知度向上と紙の本の読む楽しさ、この両者の価値を図書館としてどう捉えて、利用者へどう伝えるかを考えてほしいです。

・2023年度に実施されたスマホやタブレットの相談会が2024年度には行われておらず、電子書籍サービスを活用するためにも、デジタルデバйд解消に向けた取り組みを継続すべきです。検討してください。

・2-①で事業の課題が掲げられ、5年計画に掲げられた3項目を達成しようとするれば、図書館長の言う「資源」の少なさから、どれもあぶりはち取らずになるのは分析しなくても明白です。「資源」がないうえでの工夫はどうすればよいでしょうか。あれもこれもは無理です。2022年から貸出者数、予約数とも減少しています。多様な図書館サービスで、エコたわしをつくるなどの行事は一旦身の丈ではないとあきらめて、図書館運営体制の「再構築」に集中してはどうでしょうか。それによって本来図書館の持つ力が回復すれば、その主要業務である「子ども・若者の読書活動の推進」もかつてのように復活させることができるのではないのでしょうか。

それを推進できる有資格正規職員を配置し、選書・貸出・レファレンス・書架の構築を回復することで、「人件費」も削減できると考えます(事務を合理化し、企画・総務などに配置された正規職員を削減することで、町田市としての図書館に関わる「人件費」が削減され、その分を非正規専門職確保へと市当局と交渉する力を持つべきです)。中途半端にならざるを得ない目標の教育プランでは意味がないと思います。

・すべてにおいて、用語の使用(分析、課題など)が、業務上のものというより学生のレポートのように思われます。もう少し、専門性の高い高度な評価シートを作成したほうが良いのではないのでしょうか。

町田市の図書館評価

2024年度事業の評価結果

発行日 2026年3月

発行・編集 町田市立図書館

〒194-0013

町田市原町田3-2-9

電話 042-728-8220

刊行物番号 25-82

庁内印刷